

平成29年度第2回総合教育会議 会議録

開催日時	平成29年11月21日(火) 午前9時30分～				
開催場所	湯津上庁舎 102会議室				
会議出席状況	市長	津久井富雄	出席		
	教育長	植竹福二	出席		
	教育委員	深澤道昭	出席	川上聖子	出席
		車田宏之	出席	小林朋子	出席
		森泉	出席		
	庶務	教育部長	益子正幸	教育総務課長	大森忠夫
		学校教育課長	佐野英男	文化振興課長	長谷川操
		教育総務課	遠藤久子・川崎優志		

次 第

- 1 開 会 午前9時30分～
- 2 あいさつ 市長
- 3 議 事
 - (1) 大田原市歴史文化基本構想について
 - (2) 親園・佐久山中学校再編整備事業の進捗状況について
 - (3) 小中一貫教育について
- 4 そ の 他 特になし
- 5 閉 会 午前11時30分
- 6 会議の要旨 次のとおり

平成29年度 第2回大田原市総合教育会議

平成29年11月21日（火）
午前9時30分～11時30分
湯津上庁舎 102会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

- (1) 大田原市歴史文化基本構想について
- (2) 親園・佐久山中学校再編整備事業の進捗状況について
- (3) 小中一貫教育について

4 その他

5 閉会

平成29年度 第2回大田原市総合教育会議 発言要旨

平成29年11月21日(火)

開会：午前9時30分から

- 教育部長 定刻となりましたので、ただいまから、平成29年度第2回 大田原市総合教育会議を開会いたします。
私は教育部長の益子でございます。本日の進行を務めさせていただきます。
初めに、本会議の主催者であります、津久井市長があいさつを申し上げます。

- 市長 (市長 あいさつ)

大変お忙しい中、平成29年度第2回大田原市総合教育会議にご参加を頂きまして誠にありがとうございます。本日は3つの議題がございますが、大田原市歴史文化基本構想についてということで皆さんにお諮りをしたいと思っております。大田原市におきましては、湯津上・黒羽・大田原が市町村合併して早10年となっておりますが、こういった中歴史遺産にも素晴らしい物がたくさんあります。そういったものを改めて精査をいたしまして今後も活かしながら地域の文化財として活用していく必要があるだろうということで、この基本構想の中に盛り込みながら実施してまいりたいと思っております。

また親園・佐久山中学校再編整備事業も皆様の尽力をいただきまして順調に進んでいるという報告を頂いておりますが、いよいよ来年4月からの実施に当たりまして進捗状況の中でご審議いただければと思います。

小中一貫教育につきましては今年から実施がされたということで大変ありがたく思っております。今まさに小中一貫教育の中において、アクティブラーニング、自ら考える教育が主流になっておりまして、加えて先ほど出席した教育再生首長会議では道徳教科化の報告がございました。それらにつきましては子供たちが未来に向かっての明るさ、将来に対する希望、そういったものが諸外国と比べてかなり低い意識があるということで、道徳教育の中において自分が何のために生きているのか、どういう生き方をすることが良いことなのか、そういったことを子供のうちからしっかり身に着けておくことが喫緊の課題の中でも重要なのではないかという提言があったことをご審議いただければと思います。簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。ご審議よろしくをお願いいたします。

- 教育部長 ありがとうございます。

- 教育部長 それでは、次第の3 議題について協議していただきます。ここからの議事進行は、大田原市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、津久井市長が行います。

○市 長

円滑な議事運営に努めさせていただきたいと思いますので、御協力のほどよろしく願いいたします。

本日の議題は次第3に記載のとおり3件でございます。

まず、(1)「大田原市歴史文化基本構想について」につきまして事務局の説明後、協議をお願いいたします。

○文化振興課長

・「大田原市総合計画」を踏まえ、本市の「文化財保護のマスタープラン」に位置付けられる「大田原市歴史文化基本構想」を策定します。本構想は次期大田原市総合計画をはじめ、土地利用、まちづくり、文化財保存活用（管理）等に係る各種計画にも反映いたします。

○文化振興課長

・ねらいは文化財保護のマスタープランとしての運用であります。そのための法整備が十分ではなく、大田原市の文化財保護審議会、国では文化審議会であります。その提言に基づいて各自治体が策定を推進されております。

・地域の文化財を把握し、周辺環境を含め総合的に保存活用を図る目的であり、そのための組織作成や運営も重要であると考えております。

・取り組みは平成29年度から始まっており、平成31年度までの3か年で策定をしております。年間250万～500万円の予算規模であるが、国庫補助を活用しています。

・流れとしては、文化財の把握・調査ののちに基本構想を練り上げます。その後市民に周知、理解を図ろうと考えております。

・「大田原市歴史文化基本構想策定委員会」を開催し、関係部署とは「庁内検討部会」を設置し、情報共有・検討・調整等を行うとともに、策定支援業務をコンサルタント業者に委託します。

・「歴史文化基本構想」とは、文化財を総合的に把握し、それらの保存・活用の方針を定めるものであります。

・文化財の保存に必要な原材料や用具の確保、人材の育成、地域住民やNPO法人、企業等民間団体との連携の仕組等を検討し、それぞれの組織の役割や連携のあり方等の方針を定めます。

・地域における文化財に関する意識の醸成や社会情勢の変化、学術的調査の結果等を踏まえ、適時見直しを検討するとともに、文化財保護施策も適時見直し、充実させる予定です。

・以上で説明を終わります。

○市 長

ありがとうございました。スライドを通して説明を頂いたわけですが、皆様からこの件に関しましてのご意見・ご質問がございましたらお願いいたします。

合併して19年になって落ち着いてきましたので、ちょうど頃合いとしては良く、また国自体も地域にある歴史遺産等についてしっかりと保存をしてほしいとの事でしたので、国の流れと合併した我々の地域の流れとかの中でタイムリーな構想であると思っております。そういった部分でも、教育委員会からご鞭撻を頂ければと思います。

○車田委員 今までこの仕事は文化振興課の方々が続けており、これからも引き続き文化振興課の方々が行っていくのですか。

○文化振興課長 この基本構想策定にあたりまして、文化振興課が所管でありまして、事業は今年度スタートの3年間となりますが、ただ現時点では策定委員会、組織を立ち上げて議論することはできていない状況です。その前段のこれまで資料などを踏まえてどういったものがあるかの精査を臨時職員などと協力しながら進めているところです。今後は文化振興課が主体となりまして、関係部署にもご協力を頂きながら進めていくものになります。

○車田委員 コンサルタントも活用するのですか。

○学校教育課長 取り組みとしては来年度からを予定しております。ただかなりの経費がかかる見込みであり、今後は予算や国の補助申請などを行いながら、という事になります。コンサルタントは様々な自治体でこういった策定において契約を結んでいます。そういったところのノウハウも活かしながら進めていきたいと思っております。

○市長 よろしいでしょうか。
では、(2)「親園・佐久山中学校再編整備事業の進捗状況について」につきまして事務局をお願いいたします。

○教育総務課長

- ・来年の平成30年度4月に統合を目指して現在動き出していますが、資料①の統合後の通学手段について現在進めている状況で、通学エリアが遠くなるという事でスクールバスの運行を行います。運行経路を教育委員会と地域の方々とお話し合いを設けて検討しています。今回の統合に関しましてはスクールバスがすべてではなく、自転車通学の選択のお願いもしております。
- ・地域の保護者や関係者の方々に意見を伺いながら計画していきまして、去る10月5日に市の方針を説明するために、来年度から親園中学校生徒となる佐久山中学校の1、2年生及び佐久山小学校と福原小学校の6年生の保護者を対象とした説明会を実施いたしました。
- ・そこで市の方針といたしました通学の経路について、資料2ページのA3地図に載っております。その中で、上天梅待避所から親園中学校までのルートが、主に福原小学校に通学していた児童の中学校までのスクールバス経路です。航空局入口から親園中学校のルートがあります。赤い点の停留所まではお子さんに出てもらってバスに乗る形になりますが、説明会でお話しいたしました。
- ・その説明会で保護者の方々から意見が出ませんでしたので、ご理解を頂けたのかなと思っております。今後11月29日に佐久山地区、30日は親園地区の住民の方々を対象とした説明会を実施することとしております。こちらに関しましては、地域の方々に、スクールバスが通りますので、登校時間や下校時間に交通安全のご協力を頂きたい旨をご説明するという事で考えております。

○教育総務課長

- ・②の親園中学校施設整備・設備について
- ・統合後の生徒数に合わせて、既存の教室を3クラスに間仕切りし、普通教室を増設する工事を夏休みに行いました。
- ・また、合わせてエアコンが全普通教室に設置され、空調設備の完備された学校となりました。
- ・統合に伴い校章の変更があります。新たな校章は両校の生徒の意見を聞きながら決めまして、外側は親園に昔からある桜の花をイメージした落ち着いたピンク色になりました。『親中』という文字は金色、裏地は銀色になっております。その周りは緑色で縁取り致しました。校旗や一文字幕、校舎脇に取り付ける校章の交換は12月補正予算で予算化しまして、来年3月までに完了することとしております。
- ・校舎の外の整備として、スクールバスの発着所9か所の整備と、職員・来客用駐車場の舗装化、生徒の駐輪場の改修につきましても、年度内に実施する予定です。
- ・親園中学校の備品については、夏休み中を利用して両中学校の先生が精査し、古く処分するものを除いて佐久山中の新しい備品は親園中でそのまま使用する予定となっております。その際に係る引越しの費用は、12月の補正予算に計上しております。

○教育総務課長

- ・佐久山中学校の校舎は統合後も残ります。不要となる備品類は平成30年度に内覧会を実施し、必要な学校などへ無駄とされない様に引き継ぎます。
- ・以上の予算が伴うものについては、12月の補正で対応する予定です。
- ・学校行事や学習プログラム、教材等のすり合わせについては、すでに校務部会を設けて先生方が進めています。
- ・PTA活動や会則などのすり合わせについては、PTA部会を設けてPTA役員の方々を中心に進めています。
- ・統合後の佐久山中学校校舎の跡地利用については決まっていますが、地域の活性化協議会の意見なども伺いながら、有効に活用していけるよう検討します。
- ・以上が佐久山中学校と親園中学校の統合に向けた進捗状況という事でございます。よろしくお願ひします。

○市 長

説明が終わりましたので協議に入ります。ただいまの説明に対しましてご意見、ご感想などがございましたらお願いいたします。

○教育長

統合後のバスと自転車の人数の見込みはどのようになっていますか。

○教育総務課長

停留所が正式に決まりましたらアンケートを実施し、2月頃までには自転車通学と乗り場を含めたバス利用者の数が把握できると思います。

○市 長 他にございますか。

○深澤委員 現在の佐久山中学校の1、2年生の方々はどのような雰囲気でございますか。どのような思いでいますでしょうか。

○教育総務課長 すでに部活動などの交流事業は行っていまして、野球部などは一緒に練習をしております。生徒たちは期待を膨らませているのかな、と事務局は感じているところです。今年の親園中学校の文化祭では、統合後の校歌となる現佐久山中学校の校歌を歌いました。また今後も佐久山中学校の生徒が親園中学校にバスを使って行き交流する場も設けており、生徒間の交流は進んでいるのかなと感じております。

○深澤委員 是非不安でいっぱいではなく、期待でいっぱいの統合となる様にお願いたします。

○市 長 それでは質問がないようですので、次の「小中一貫教育」について、事務局の説明をお願いします。

○学校教育課長 それでは説明いたします。市長のご挨拶や本日の資料の中にありました道徳の教科化について、始めに簡単に説明させていただきます。

・小学校は平成30年度から、中学校は平成31年度から道徳の教科化が始まります。教育委員の皆様には小学校の教科書選定にご尽力いただきありがとうございました。

・大田原市では教科化を“強化”と捉えておりまして、“自己重要感の育成”という言葉を使わせてもらっております。国の方では“生きる力”という言葉がよく出ておりますが、大田原市では“自己有用感”ではなく“自己重要感”、あなたたち一人一人はとても重要な子供であると思わせる教育をしていきたいと思っております。もちろん教科化に関しましては、問題解決する力や体験的な学習、考えて議論する道徳を進め、本市では特に“自己重要感”の育成を強化し、いじめや不登校の減少に取り組んでいきたいと思っております。

・小中一貫教育ということで、先日の議会で大豆生田議員から小中一貫教育の成果と課題についての質問がありました。若草中学校区と金田北中学校区の2つのモデル地区がありまして、若草中学校区が7月7日、金田北中学校区は11月7日に公開授業を行い、やはり関心度が高いこともあり、すべての校長にお越しいただきました。本市においては平成30年度の4月から小中一貫教育とコミュニティ・スクールを導入させていただきます。

資料にあります「平成30年度版大田原市小中一貫教育推進計画」は以前のものより2校のモデル校の反省を取り入れ変更が加えられております。昔から授業は不易と流行と言われていまして、不易とは昔から寺子屋のように先生が一人でがっちり教えるものであり、流行とは発展学習のような少し時代の先を行った授業です。このあたりの割合の課題もありますが、7ページの目標と取り組みが平成28年度版と29年度版から多少変更されております。目標は当初8つありましたが、確かな人間性と学力を目指すということで1つに変更されました。取り組み内容も9つから4つにまとめました。8ページの中期に英語も追加されております。

○学校教育課長 推進組織においても、管理職の先生の兼務発令が栃木県では禁じられており、その点も変更いたしました。この推進計画に基づき来年度4月から全中学校区で小中一貫教育に取り組んでまいります。

・別添資料に小中一貫教育とコミュニティ・スクールのグランドデザインがありますが、コミュニティ・スクールと小中一貫教育は車の両輪のようなものであり、小中一貫教育を行うということで地域の活性化や創生もコミュニティ・スクールとして同時に行えると考えております。本市では具体策として、学校運営基本方針を承認するとともに意見を述べてもらい、学校の特色に応じた教職員の任用に関する意見も述べてもらいます。

任用に関しては県内他市ではあまり導入されていませんが、本市では教育長の助言や文科省の方針もあり採用いたします。任用に対して意見を述べる例として、学区の特色に合わせて「剣道の先生が欲しい」といった意見を述べるものであり、先生個人を直接異動させるものではありません。

○学校教育課長 以上のように小中一貫教育とコミュニティ・スクールを一緒に進めていきたいと考えております。説明を終わりにします。よろしくお願いいたします。

○市長 ありがとうございます。ただいま説明が終わりました。この件に関して何かご意見等がございましたらよろしくお願いいたします。

○小林委員 教職員の併任ということですが、併任される先生は小中学校の免許を持ってないといけないという規定はありますか。

○学校教育課長 そのために申請していただきます。例えば中学校の教員は申請すれば小学校も教える事が出来ますので、問題はありません。ただ異動に関しては厳しいですが、不可能ではありません。

○川上委員 運営面の調整ということで小中一貫教育のコーディネーターがいらっしゃるといっていますが、具体的に何をやっていただけるのでしょうか。

○学校教育課長 教務主任が中心となり、小中連携ではなく小中一貫のなかで、9年間で無駄のないようなカリキュラムの見直しなどを行います。いじめや不登校減少や中1ギャップの面で小中連携ももちろん重要ではありますが、教務主任や教頭が小中一貫として取り組みます。これまで主に校長先生が行っていた地域との連携は、地域連携教員がコーディネーターとして行います。

- 教育長 地域コーディネーターの活用できそうな具体例としては、菊づくりの指導者やしめ縄制作の指導者探しなど、地域に対する情報源になると考えております。活躍の場は多いものであると思います。
- 車田委員 小中一貫教育の形態において中期が5～7年となっていますが、小学校の卒業式は行うのでしょうか。
- 学校教育課長 卒業式は行わせていただきます。今までと形は変わらないと考えて頂いて結構です。塩原義務教育学校や茨城などの先進地では小学校の卒業式はなく、9年間の卒業式だけの所もありますが、本市はこれまでと同じとお考えください。
- 小林委員 学校運営協議会の件についてですが、これまで地域の意見は聞く一方の方針を学校だけで決めていたように思います。これからは中学校区になり学校運営協議会ができますので、地域と学校の連携に期待しております。
- 学校教育課長 学校運営協議員の人数は20人では多いという意見もありましたが、黒羽中や親園中の学区を考えると地区が広いので人数は多くなってしまいます。しかしその中でグループを作り、例えば広報活動や菊づくり、授業を手伝うグループなどに分け、その下にさらに組織を作り運営していくことを考えております。地域の学校づくりを目指しております。
- 森委員 これまで小学校区で評議委員会があったかと思うのですが、これからの中学校区での学校運営協議会では小さい小学校地区ごとの話はできるのかという不安の声も聞こえてきました。
- 学校教育課長 確かに組織が大きくなって中学校区で話し合うということは、中学校区の目標であることや子供たちの様子を大きく見ることとなっています。
- 教育長 中学校区の中の小学校区から各々代表者は出ておりますので、その地区の意見を吸い上げてコミュニティ・スクールを進めていく予定です。その点から小さい地区の意見が通らなくなってしまうという問題は解決できると考えています。各地区がカバーできるように20名～21名の協議員を置くこととなりました。以前の体系より、より多くの意見が集まってくるのが予想されますので、地域のための学校というものが色濃くなると思います。
- 市長 よろしいでしょうか。意見がないようですので、本日上程されました議題はすべて終了いたしました。ここからの進行は事務局にお返しいたします。

- 教育部長 大変貴重なご意見を頂きありがとうございました。次第の4 その他に移ります。何かございますでしょうか。
- 深澤委員 今は予算編成は新庁舎建設などがあり厳しい中であるとは思いますが、来年度の教育予算は十分確保できましたでしょうか。
- 市長 ソフトの面ではむしろ充実していると思います。ハードの部分では、大田原中学校の建て替えを検討中でして、早急に踏み込まずに一年間じっくり考える事にしております。様々な方のご意見を伺い、また財政的な余裕を持たせ、さらには新庁舎建設が最後まで分からないものですから、最後まで見定めてから進めようと考えております。
- ソフトの面では教育長や先生方の力を借りつつ内容等の充実はできていると思います。コミュニティ・スクールもこれからがスタートとなりますので、皆様方とより良い教育環境や地域づくりを国の考え方にもある様に一体化してやっていきたいと思っております。学校は学校、子どもは子どもと分けるのではなく、地域の中で子供を作りながら地域も一緒に作っていくように進めていきたいと考えております。
- 深澤委員 市費での支援の先生は大変助かると聞いております。そのあたりの充実もお願いいたします。
- 市長 やはりいろいろな学校から要望が上がってきていますが、市単費の年間2億円という枠のなかで最も効率的な使い方を探していただき、現場の中で工夫して進めていただければと思います。
- 教育部長 以上で第2回大田原市総合教育会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。

閉会：午前11時30分